

令和6年度 高校生と議員との交流事業

## 2040年の長崎のまちづくり

～アクティブシティ「3A」施策で幸福度Upへ～

長崎県立長崎南高等学校 TEAMさいかそく

1. はじめに
2. 長崎県の転出入の状況
3. 転出超過地域との比較
4. 施策の方向性
5. 施策提案
6. 最後に

# 1. はじめに

1. 1 研究背景

1. 2 リサーチクエスチョン・仮説

1. 3 検証方法

## 研究の背景

# 長崎県の人口減少

2044年には100万人を  
下回ることに・・・

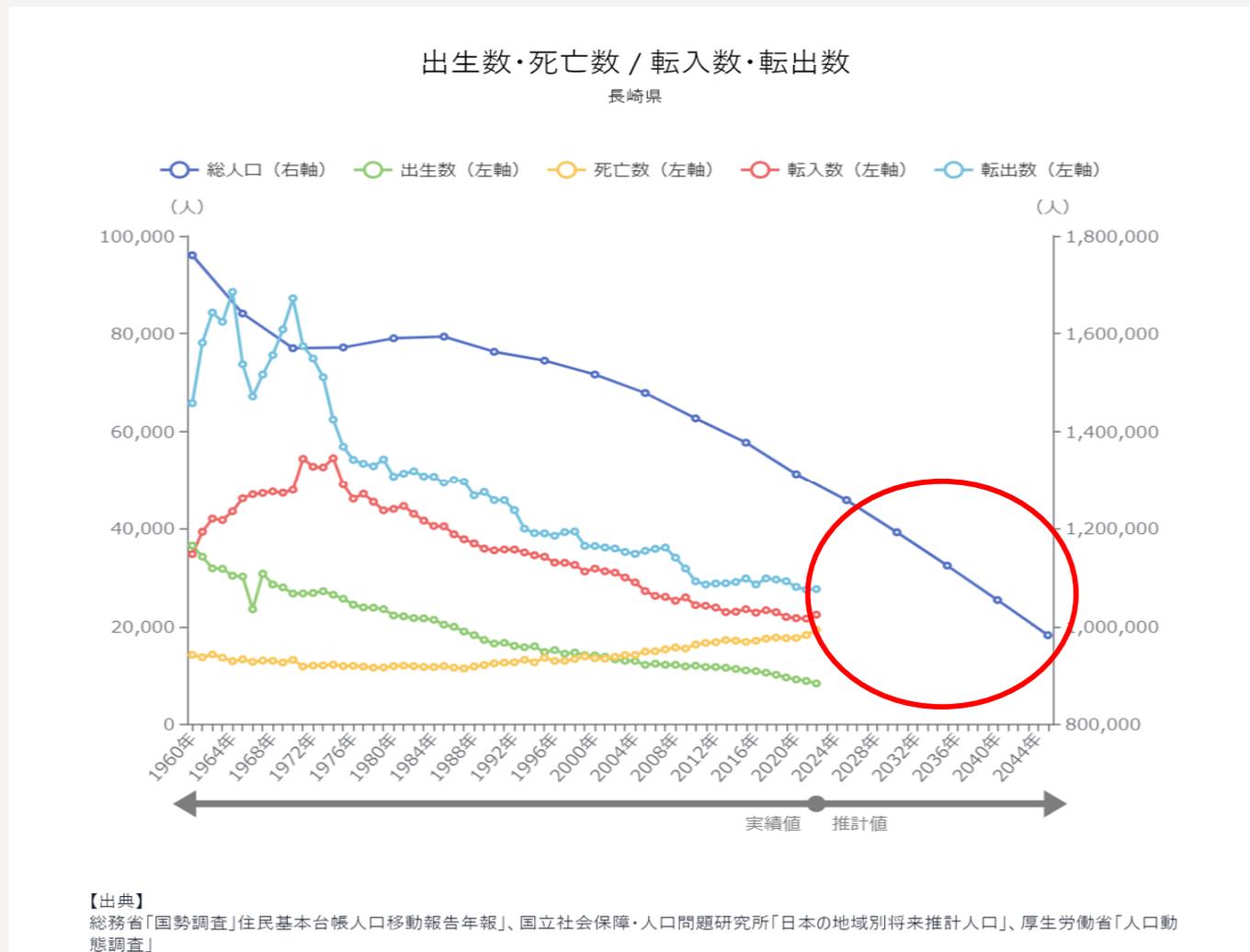


図1 長崎県の出生数・死亡数・転入数・転出数

## リサーチクエスチョン・仮説

### リサーチクエスチョン

長崎の人口減少問題を解決するためにはどのような「まちづくり」をすればよいのだろうか？

### 仮説

転出入の状況を分析し、転出超過地域と比較してわかったことを長崎のまちづくりに生かすことで人口減少問題が解決に向かう。

## 検証方法

- RESASを活用した人口動態の分析
- 「移住理由アンケート（長崎県政策企画課）」の分析
- Well-Being全国調査の分析
- 自治体の施策の分析

## 2. 長崎県の転出入の状況

2. 1 長崎県からの転出

2. 2 長崎県へのUターンの可能性

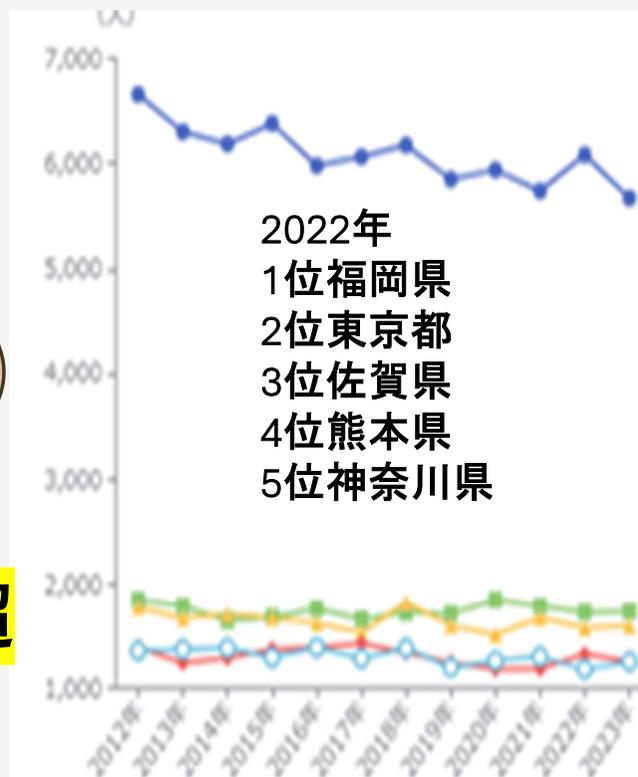
## 2. 1 長崎県からの転出

転入・転出ともに  
1位は福岡県  
2位は東京都

東京の  
約3倍

転出超過数は、  
福岡県が全体の半数超  
を占める

長崎県への転入上位



長崎県への転出上位

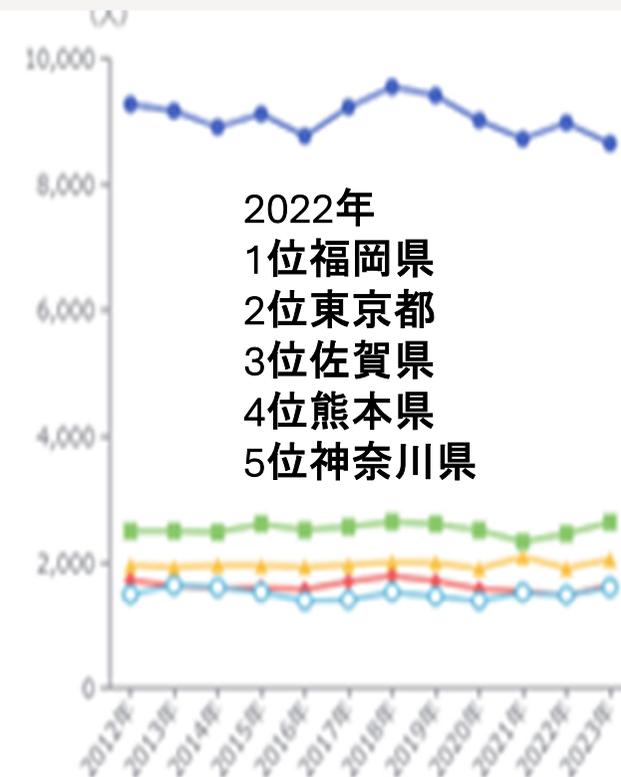


図2 長崎県の転出入上位都道府県

## 2.1 長崎県からの転出

20歳未満、  
20歳台が特に  
福岡県への  
転出超過が  
多い

福岡県への  
転出超過対策  
が必要！

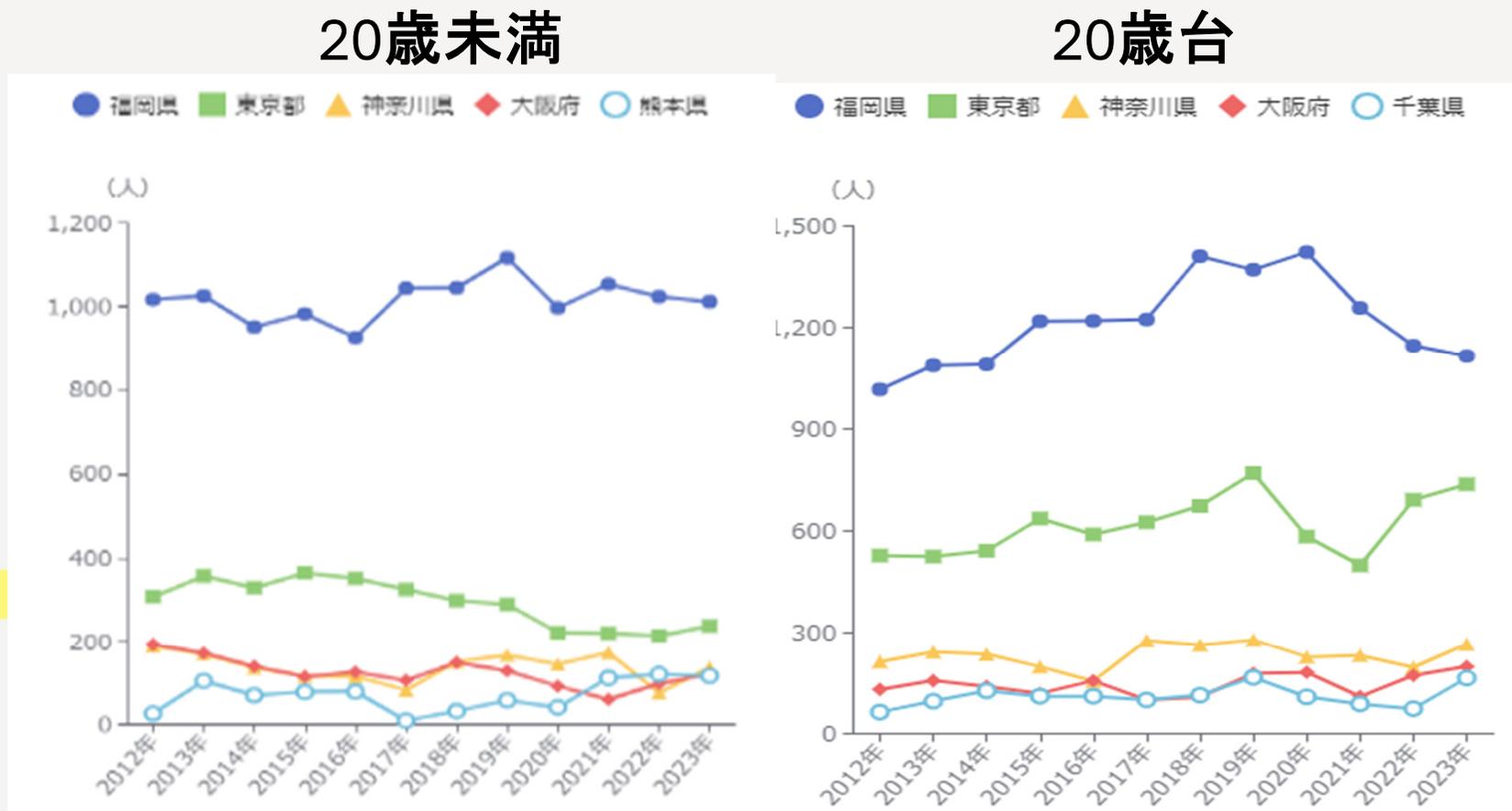


図3 長崎県の転出超過数上位地域

## 2. 2 長崎県へのUターンの可能性

### 県外転出者への抽出調査

また帰ってきたい（県内出身者）

男性 ・ ・ 61%

女性 ・ ・ 59%

単位：人

出身地/性別	01:はい	02:いいえ	総計
<b>01:長崎県が出身地</b>	<b>964</b>	<b>643</b>	<b>1,607</b>
01:男性	468	302	770
02:女性	496	341	837
<b>02:県外が出身地</b>	<b>184</b>	<b>369</b>	<b>553</b>
01:男性	117	225	342
02:女性	67	144	211
<b>総計</b>	<b>1,148</b>	<b>1,012</b>	<b>2,160</b>

図4 県外転出者の「長崎県にまた帰ってきたいか」  
(R5 長崎県移住理由アンケートより)

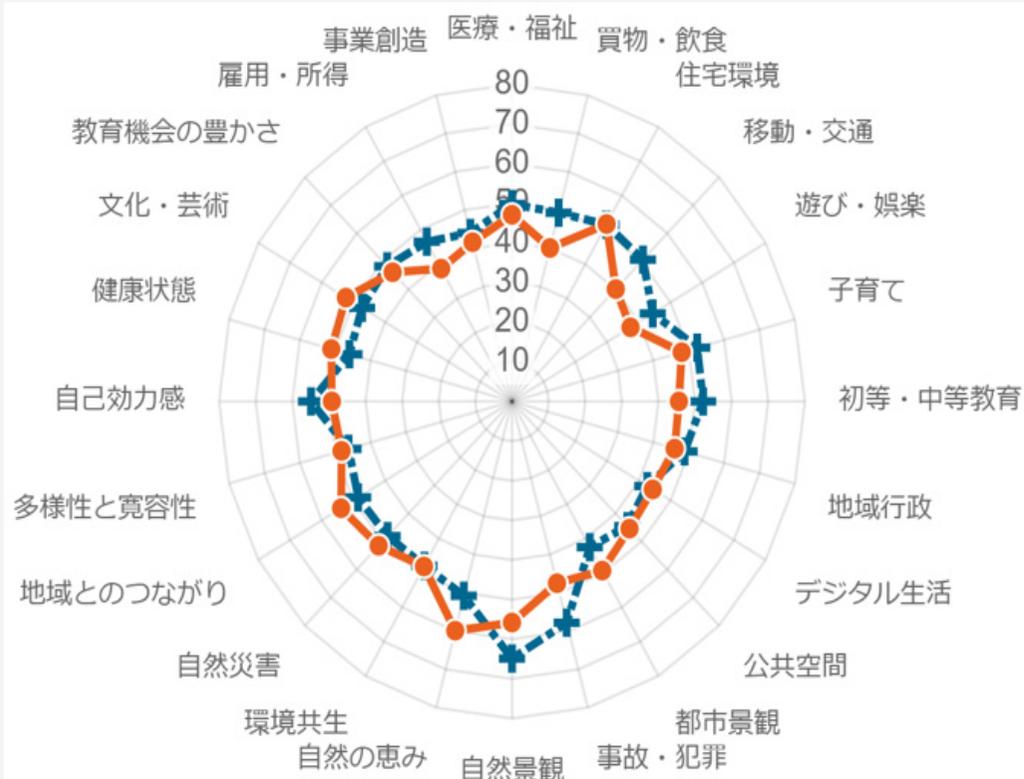
# 3. 転出超過地域との比較

3. 1 長崎県と福岡県の「WELL-BEING」の違い

3. 2 福岡県への転出超過対策

# 3. 1 長崎県と福岡県の「Well-Being」の違い

## 長崎県



## 福岡県

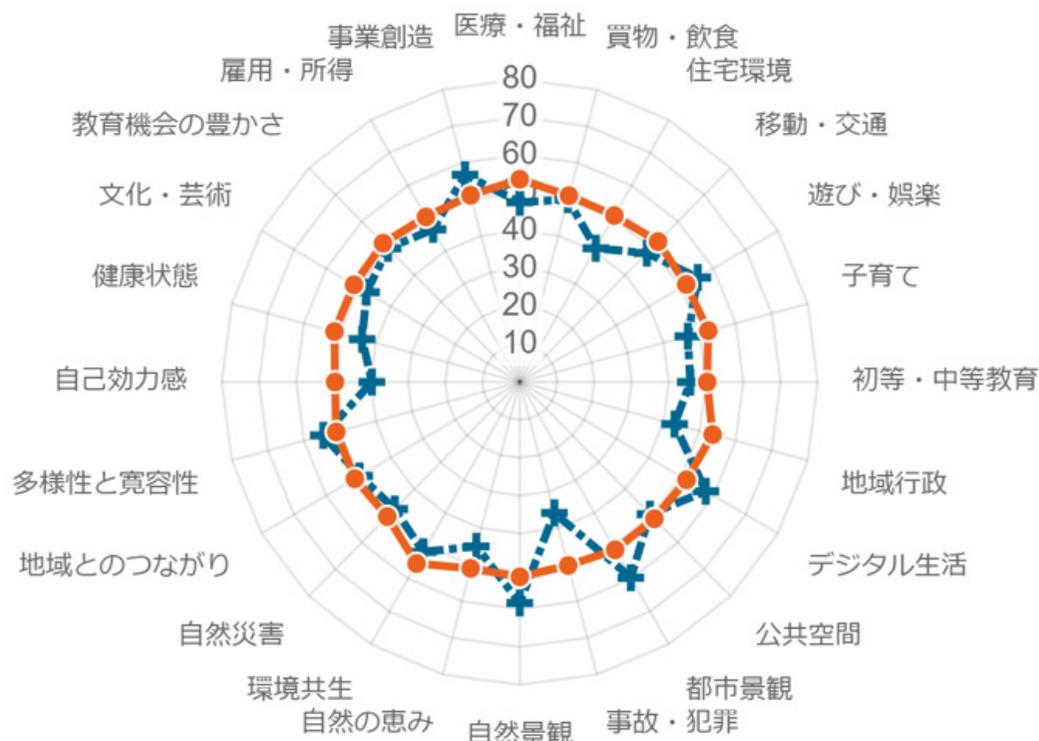


図5 地域幸福度 カテゴリー別 (赤：主観データ、青：客観データ)

### 3. 1 長崎県と福岡県の「Well-Being」の違い

長崎県が福岡県を**上回る**要素

#### < 客観データ >

- ・ 自己効力感 (+15.2)
- ・ 住宅環境 (+10.7)
- ・ 自然景観 (+6.5)

#### < 主観データ >

- ・ 自然の恵み(+8.9) 等

長崎県が福岡県を**下回る**要素

#### < 客観データ >

- ・ 都市景観 (-17.2)
- ・ デジタル生活 (-15.0)

#### < 主観データ >

- ・ 遊び・娯楽(-12.4)
- ・ 移動・交通(-12.4)
- ・ 事業創造(-9.5) 等

# 3. 1 長崎県と福岡県の「Well-Being」の違い

住民が感じる「幸福度」  
の平均値

長崎県 6.8  
> 福岡県 6.5

「5年後の幸福度」  
の平均値

長崎県 6.7  
> 福岡県 6.5

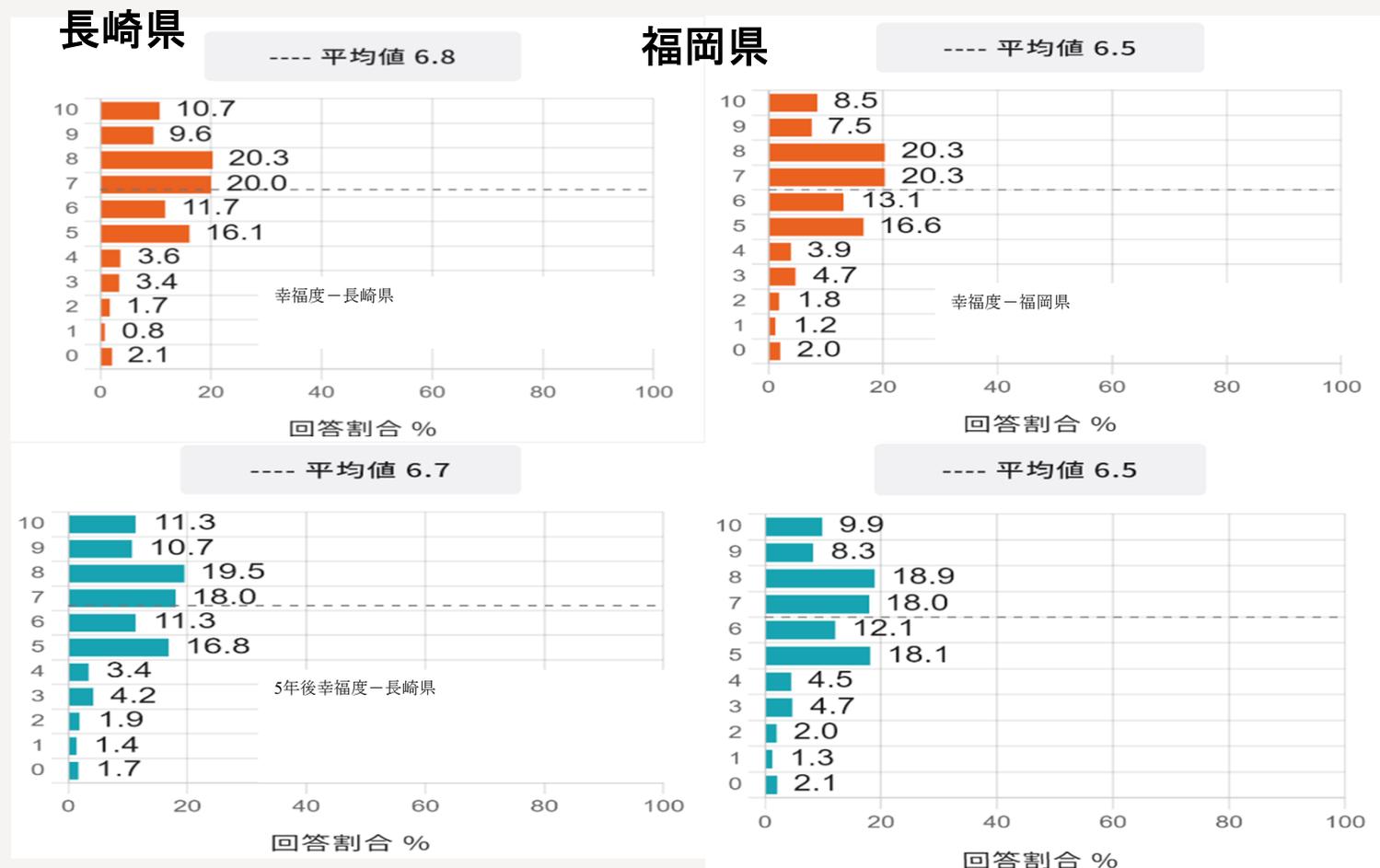


図6 住民が感じる幸福度 (赤) と5年後の幸福度 (青)

## 3. 2 福岡県への転出超過対策

### <データから考えられること>

- ・長崎県の住民の暮らしやすさ、幸福感 ⇒ 高め  
→ 「自己効力感」や「幸福度」 ⇒ 福岡県を凌ぐ
- ・高評価の項目（「自然景観」「自然の恵み」「まちの魅力」）  
を生かしていく  
⇒ 福岡県への転出超過を減少させる
- ・不足が感じられる項目（「遊び・娯楽」「移動・交通」「事業創造」  
「デジタル化」「環境共生」）  
⇒ これらに向き合ったまちづくりを考えることが有効

## 4. 施策の方向性 ～長崎市を例として～

4. 1 コンパクトシティ化による住みやすさ+α

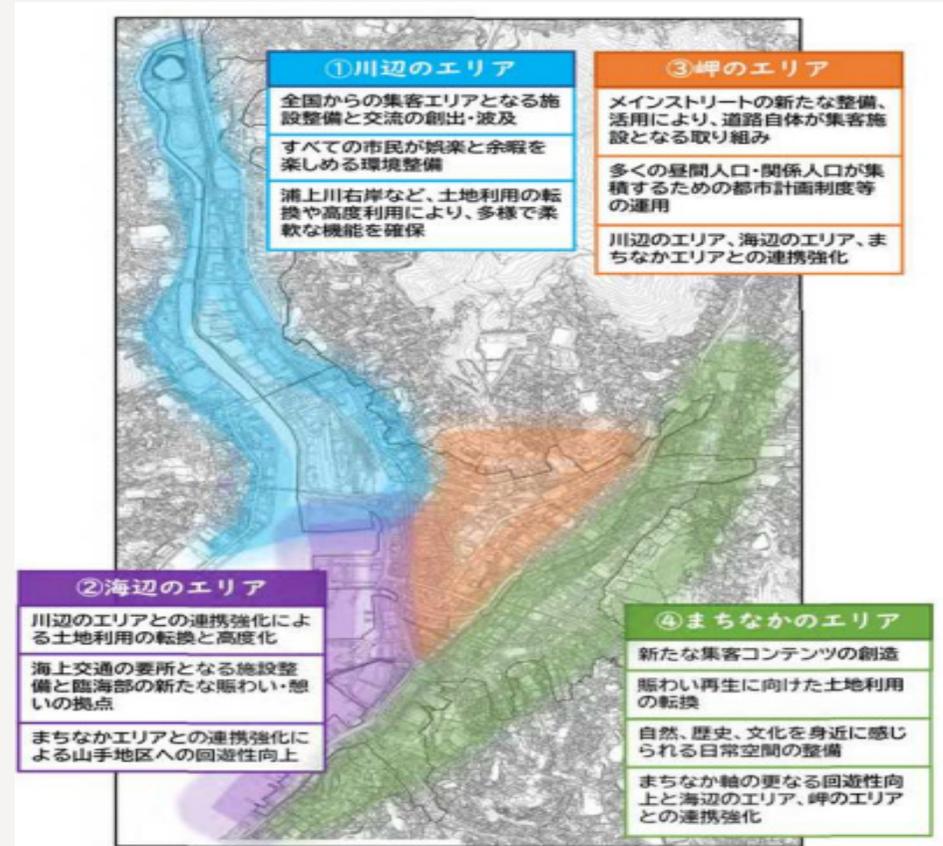
4. 2 長崎スタジアムシティの開業

4. 3 長崎県民のスポーツ実態に関するアンケート調査

4. 4 リバプール市に学ぶ「アクティブシティ」化

# 4. 1 コンパクトシティ化による住みやすさ + α

市	総面積		可住地面積		森林面積	
	(km <sup>2</sup> )	(km <sup>2</sup> )	比率	(km <sup>2</sup> )	森林率	
福岡市	343.4	231.7	67.5%	110.2	32.1%	
長崎市	405.9	186.2	45.9%	218.3	53.8%	



図：都心まちづくり構想エリア図

< 総面積 >

長崎市 > 福岡市

しかし

市街地まで山が迫り、  
可住地面積が狭い

都市機能をコンパクトに集中させる  
 「都心まちづくり構想」を立て、  
 それぞれの特色を活かしながら4つ  
 のエリアの再整備を行っている

そこで長崎市は...

図7 長崎市の都心まちづくり構想より

## 4. 1 コンパクトシティ化による住みやすさ + $\alpha$

「長崎に住むすべての人が住みやすい街を目指す」



### <コンパクトシティ化の展望>

**子ども** ⇒ 保育所や学校を集結させて待機児童ゼロを目指す

**若者** ⇒ 商業施設を集中させ、若者の人口流出を抑制する

**社会人** ⇒ 職場までの通勤時間を短縮させることで自身の理想とする  
ワーク・ライフ・バランスの実現につなげる

**高齢者** ⇒ 病院を集結させ、医療機関へのアクセスを向上させる

## 4. 1 コンパクトシティ化による住みやすさ + $\alpha$

コンパクトシティ +  $\alpha$



コンパクトさを逆手にとって  
生活圏内に +  $\alpha$  の魅力を備えた  
まちづくりを行うことを考える！

## 4. 2 長崎スタジアムシティの開業

令和6年10月

⇒ 「長崎スタジアムシティ」が開業

サッカーやバスケットボールのプロチームが拠点を置く

「見ること」は充実してきている

では「行うこと」は？



図8 長崎スタジアムシティのHPより

## 4. 3 長崎県民のスポーツ実態に関する調査

あなたは普段、運動不足を感じるか

「大いに感じる」＋  
「ある程度感じる」

= **77.2%**

(7) あなたは普段、運動不足を感じますか。

[基数：回答者全員]

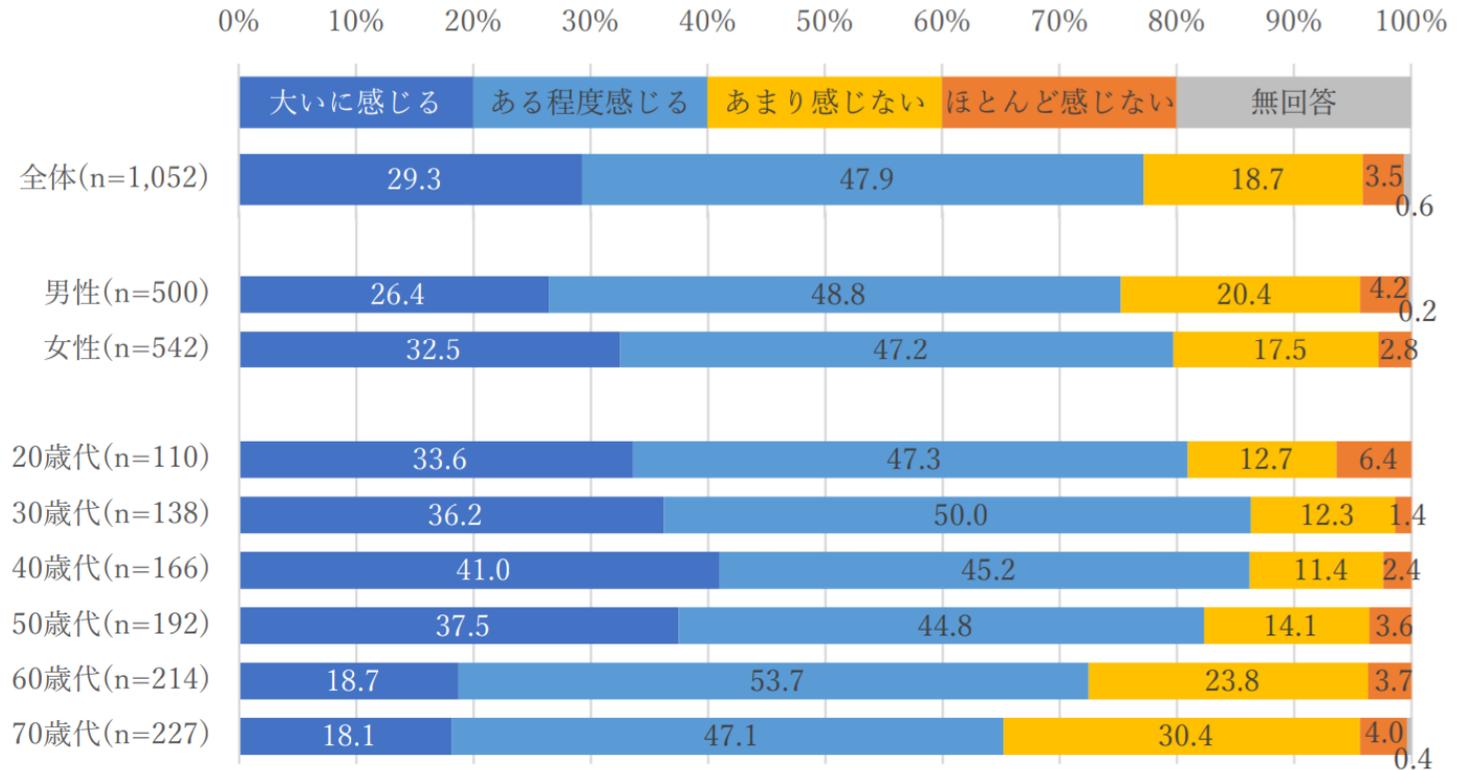


図9 長崎県民のスポーツ実態に関する調査より

## 4. 3 長崎県民のスポーツ実態に関する調査

あなたは生涯にわたり運動やスポーツを実施していきたいか

「ずっと実施していきたい」＋「できれば実施していきたい」

= **80.5%**

(8) あなたは生涯にわたり運動やスポーツを実施していきたいと思えますか。[基数：回答者全員]

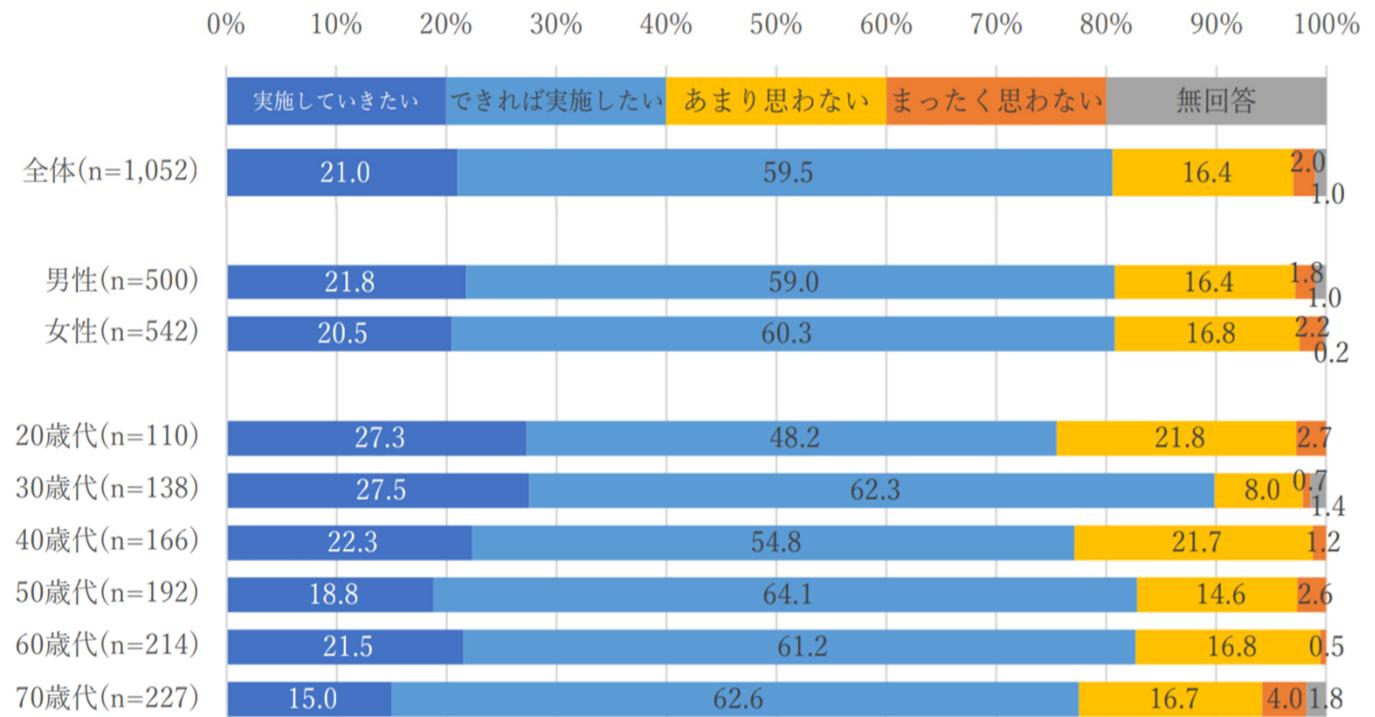
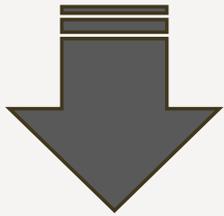


図10 長崎県民のスポーツ実態に関する調査より

## 4. 4 リバプール市に学ぶ「アクティブシティ」化

「人口増加」を達成した  
「リバプール市」の事案を参考に



＜私たちの目標＞  
スポーツ・身体運動によるまちおこし



© Higa Tsutae

## 4. 4 リバプール市に学ぶ「アクティブシティ」化

### <リバプール市の取り組み>

2005年5月 **アクティブシティ戦略**を開始

既存の取組の  
調整を推進

アクティブシ  
ティとして  
認知・評価

「4つの目標」

sport for allへ  
のアクセスを  
提供

都市計画の中に  
身体活動を促進  
するような要素  
を考慮

## 5. 施策提案

# 「3A」で長崎市をアクティブシティへ

5. 1 提案①アクティブ・ロード&パークの整備

5. 2 提案②アクティブ・ライフスタイルの確立

5. 3 提案③アクティブ・ワークプレイスの構築

## 5. 1 提案①アクティブ・ロード&パークの整備

### 「アクティブ・ロード」を整備

川辺の美しい景観を生かした  
ジョギング周回コース

- ・ 歩行者との分離
- ・ 街路樹や日よけを設置
- ・ 夜間も安全な照明

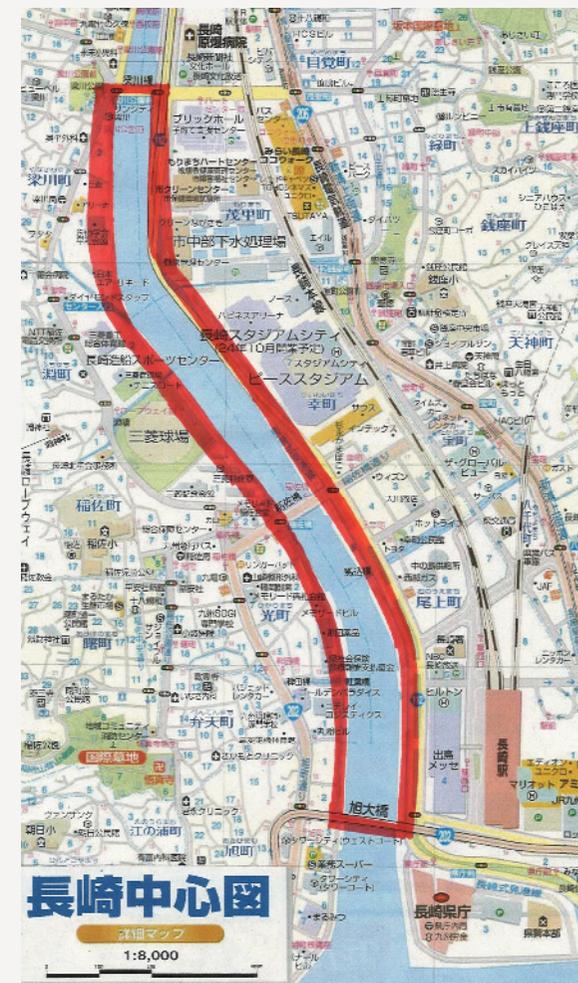


図11 想定する「アクティブ・ロード」<sup>25</sup>

## 5. 1 提案①アクティブ・ロード&パークの整備

### 山部をアクティブ・パークに！

#### ①空き家の多い地域

長崎の空き家問題⇒**深刻に！**

空き家問題、自分には関係ないと思いませんか？

長崎県土木部住宅課 住環境整備班 TEL 095-894-3104

長崎県の空き家率 **15.4%** (平成30年調査) → 6~7軒に1軒は“空き家”です！  
隣の家が空き家になったり、遠い親戚の家を相続したり…  
実はあなたにも迫っているかもしれません。

家や土地を放っておくとどうなる？

##### ▼ 周辺への迷惑

管理不全の空き家が、周囲の人やモノに被害を与えた場合、**損害賠償が発生**することもあります。特に台風や地震時は要注意です。



空き家の所有者等には**管理責任があります！**

##### ▼ 家の劣化・老朽化

使いたい、売りたいと思った時には、住めなくなっていることもあります。

##### ▼ 不動産価値の下落

老朽化に伴い、価値が下がっていく可能性もあります。

図12 長崎県土木住宅課HPより

空き家の件数 減

#### ②土砂災害警戒区域・特別警戒区域

ハザードマップで指定されている**警戒区域**

・**特別警戒区域**を公園へ

災害発生時の被害者 減  
地盤整備による災害発生率 減

運動不足と都市問題を同時に解決

## 5. 2 提案②アクティブ・ライフスタイルの確立

### < 県庁跡地の活用案 >

長崎市にあるスタジアムや競技場を統括する本部と  
誰もが気軽にスポーツと触れ合える施設である  
<アクティブ・ライフセンター>をつくる

<スポーツ施設の具体例>  
・フットサル  
・ミニバスケットボール  
・テニス、バドミントン  
・ストリートスポーツ



図13 長崎県庁跡地

### < 利点 >

- ・市内にある公共のスタジアム、競技場を一括に管理、連動したイベント等も企画する
- ・小スペースで多くのスポーツを行うことができる
- ・市民たちの触れ合い場ともなる
- ・幅広い年齢層の人々が利用できる
- ・気軽に運動ができ、市民の運動不足解消につながる

## 5. 2 提案②アクティブ・ライフスタイルの確立

< 県庁跡地 >  
総面積13000m<sup>2</sup>



さまざまな公共施設とともに  
アクティブライフセンターを整備



図14 長崎県庁跡地

## 5. 3 提案②アクティブ・ワークプレイスの構築

### 歩数計測によるポイント配布アプリ

アクティブ・ライフセンター内にアクティブ・ワークプレイスを設置し、アクティビティ・トラッカーでアプリ利用者の活動を把握するアプリを開発する。歩数に応じてアクティブ・ライフセンターの利用料を割引するなどの特典をつける

住民の健康増進につながるが  
行政だけで進めると負担が大きい

そこで...

企業 × 行政 × 大学で解決を！



## 5. 3 提案②アクティブ・ワークプレイスの構築

### 企業 × 行政 × 大学の連携

- 企業は、社員の身体活動増進のために、歩数に応じてサービスの受けられる制度にスポンサーとして参加
- 社員は、福利厚生の一環として歩数に応じてお得なサービスを受ける
- 行政とスポンサーの出資によって運営されるアクティブ・ワークプレイスでは、大学の研究援助を受けながら、開発したアプリの運営と、各企業の社員のポジティブ思考と身体活動等の関連を分析、社員のウェルビーイング向上のための助言を企業に対し行う
- 社員のウェルビーイング指数の向上が企業価値の一つとなり、優秀な人材の確保や新たな投資を呼び込む要素となる

# 6. 最後に

6. 1 今後の展望

6. 2 参考文献

## 6.1 今後の展望

大村市や離島部の市町について、長崎市と同様にデータの分析を行い、それぞれの地域課題の解決に向け施策を考えていきたい

## 6. 2 参考文献

- Resas

  - 国勢調査・住民基本台帳人口移動報告年報  
日本の地域別将来推計人口・人口動態調査

- 「Well-Being」全国調査（デジタル庁）
- 長崎都心まちづくり構想（長崎市都市計画課）
- 移住理由アンケート（長崎県政策企画課）
- 長崎県民のスポーツ実態に関する調査（長崎県スポーツ振興課）
- 「スポーツ・身体活動でイノベーションを起こしたまちづくり」  
本間恵子（笹川スポーツ財団特別研究員）
- 県庁舎跡地整備基本構想（長崎県県庁舎跡地活用室）